

資料 1

兵庫県における特定外来生物の対策等について

（クビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウ）

1 特定外来生物に対する県の取組状況

阪神北県民局特定外来生物対策連絡会議（令和7年7月10日） 2

（1）特定外来生物全般

県ではこれまで、特定外来生物が発見された場合には、生物の種類や防除手法の確立の有無を勘案した上で、県が主体的に市町や専門家等との間で役割分担を調整し対策を実施してきたが、根絶等には至らず、分布範囲は拡大している状況。

区分	ナガエ	外来カミキリ	アルゼンチンアリ	アライグマ・ヌートリア
経緯等	・東播磨地域において平成30年頃から地元で対策実施するも対策追い付かず ・現在16市町に拡大	クビアカ：R4.6に明石市で発見以来、6市に拡大 ツヤハダ：R3神戸市、西宮市に拡大	R3.12に伊丹市、R5.4に尼崎市で発見	淡路地域以外の全市町に拡大(アライグマはH10頃から神戸市中心に生息確認)
対応	・R5.11 副知事をトップとする防除対策会議を設置 ・侵入拡大に対応して地域部会を設置(東播磨、北播磨、淡路) ・令和6年9月補正において大規模な対策を実施	クビアカについては、市町との情報共有会議を開催(R7から全市町出席)	伊丹：県、伊丹市、大阪府、空港関係者等で構成する防除対策検討会により対策検討	・アライグマについては生息する38市町で防除計画策定済 ・ヌートリアは丹波市以外37市町で策定済
防除主体等	県中心の対策(防除手法未確立)	クビアカ：役割分担を調整して対策実施(初期防除は県、その後の対策は市町)	関係者多く、防除対策検討会で役割分担調整	市町中心の対策(県はわな設置経費等一部支援)
現状	・侵入地域における対策が完了しておらず、未然防止対策が不十分 ・地域により必要となる対策内容が異なる	産卵数多く、今後益々被害が拡大する恐れ 未然防止対策が不十分	JR伊丹駅へ分布拡大の可能性あり	捕獲頭数は増加しているが農業被害額は増加、都市部での被害拡大

（２）クビアカツヤカミキリ

＜通常時＞

- ・普及啓発、講習会の開催
- ・通報対応
- ・フラスのPCR検査

＜会議等＞

- ・市町情報共有会
- ・県民局への情報提供

＜新規確認時＞

- ・専門家派遣
- ・周辺状況調査
- ・初期防除（資材の提供等）

（３）ナガエツルノゲイトウ

＜通常時＞

- ・普及啓発、講習会の開催
- ・通報対応

＜会議等＞

- ・ナガエツルノゲイトウ防除対策会議（会長：服部副知事）
- ・ナガエツルノゲイトウ防除対策会議地域部会（東播磨地域、北播磨地域、淡路地域）

＜新規確認時＞

- ・専門家派遣
- ・周辺状況調査
- ・初期防除（資材の提供等）

2 クビアカツヤカミキリとは

(1) 生態・特徴



被害木の断面（県外で撮影）

サクラ、モモ、ウメなどバラ科の樹木を枯らす外来のカミキリムシ

原産国：中国、モンゴル、朝鮮半島、台湾、ベトナム

体 長：2.5cm～4cm（触覚を含まない）

見た目：首（胸部）が赤い、首以外は光沢のある黒色

特 徴：繁殖力が強く、500～1,000個の卵を産む

幼虫が木の内部を食い荒らし、木を枯死させる

このときに、「フラス」と呼ばれるフンと木くずが混ざったものを排出する

<見つけ方>

成 虫：木の幹や、葉や枝の上など

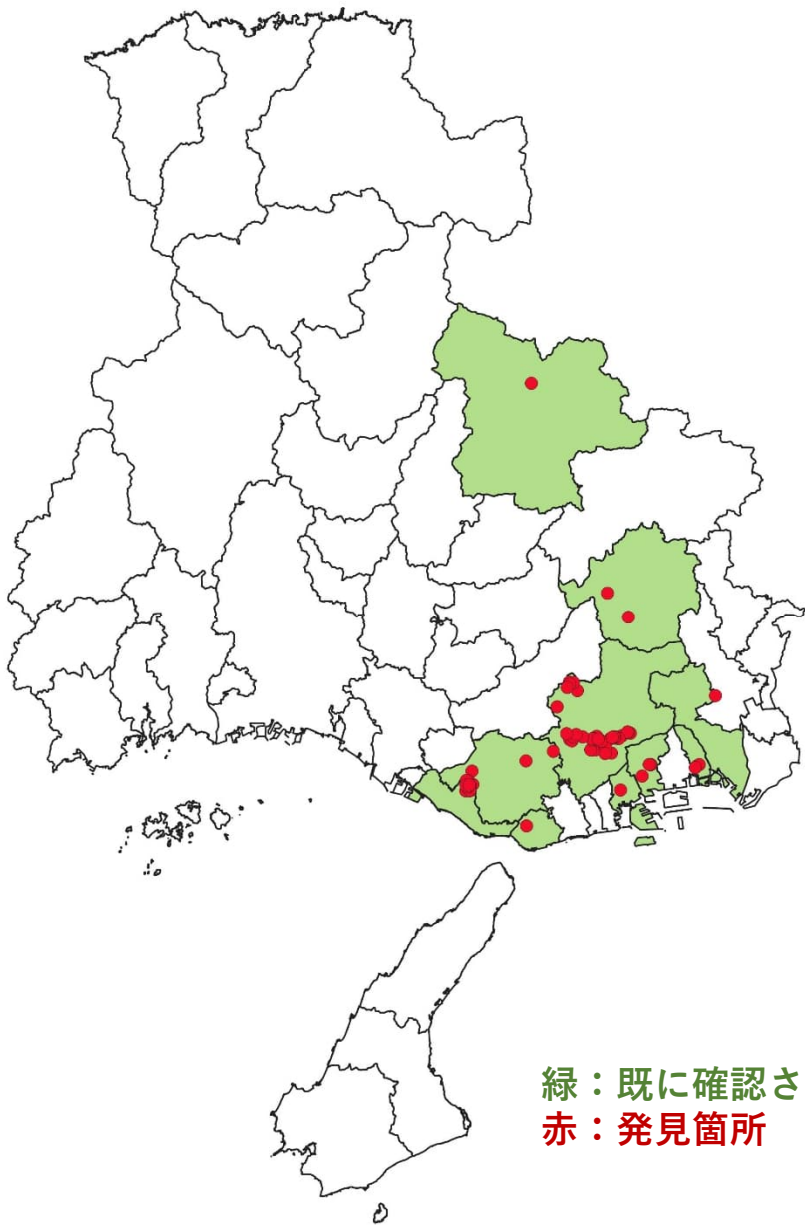
フラス：木の根元や、木の幹

- ☑ 明るい色のフラスが排出される
- ☑ 削りとられたような薄い木くず片を多く含む



提供：栃木県、和歌山県

(2) 県内の分布状況



＜県内市町への侵入確認年＞

令和4年6月 明石市【県内初確認】
7月 神戸市（北区）、芦屋市
令和5年7月 西宮市
令和6年7月 三田市
令和7年7月 丹波市

＜被害木確認数（本）＞

丹波市以外：R7.7.4時点
丹波市：R7.7.7時点

	R4	R5	R6	R7	合計
明石市	21(5)	26(20)	76(72)	11(5)	134(102)
神戸市	4(0)	15(2)	142(34)	15(15)	176(51)
芦屋市	7(2)	0(0)	0(0)	0(0)	7(2)
西宮市	-	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)
三田市	-	-	51(45)	8(0)	59(45)
丹波市	-	-	-	7(2)	7(2)
合計	32(7)	42(25)	270(152)	41(22)	385(204)

（ ）内は伐採本数

緑：既に確認されている市町
赤：発見箇所

（3）防除方法

①伐採【物理的防除】

方法：拡散防止措置を実施の上、伐採及び処分
 効果：木の中の幼虫ごと処分
 時期：成虫発生シーズン以外
 管理：不要

成虫発生シーズン(6～8月)は、伐採木の中から成虫がでてくる恐れがあるため、オフシーズン(1～5月、10～3月)に伐採すること！

②ネット巻き【物理的防除】

方法：高さ1.6m程度までのネット巻き
 効果：成虫の拡散防止、産卵防止
 時期：被害確認直後
 管理：必要（定期的な見回り、メンテナンス等）

③薬剤【化学的防除】

方法：(1)エアゾール剤、(2)樹幹注入剤
 効果：木の中の幼虫を処分
 時期：適宜
 管理：必要（定期的な見回り等）

防除方法1種類のみでは、完全に被害を防止することはできない！このため、物理的防除と化学的防除を組み合わせて対応することが必要！



伐採



幼虫の掘り取り



ネット巻き



エアゾール剤



樹幹注入剤

組み合わせて
対策を実施

3 ナガエツルノゲイトウとは

（1）生態・特徴

- ・南米原産の水生植物。全国25都府県で確認。
- ・凄まじい繁殖力・再生力で、茎や根の小さな断片からも再生可能。
- ・水生植物だが、乾燥に非常に強く耐塩性もあり、陸上や海浜でも生育。
- ・大量に繁茂すると、排水溝や農業用水路を詰まらせる等水流を阻害。
- ・田畑で繁茂すると、作物を覆い、生育不良が生じる。
- ・ため池等の水面を覆い尽くすため、水質の悪化や在来種の生息環境を奪う。

〈法的位置づけ〉

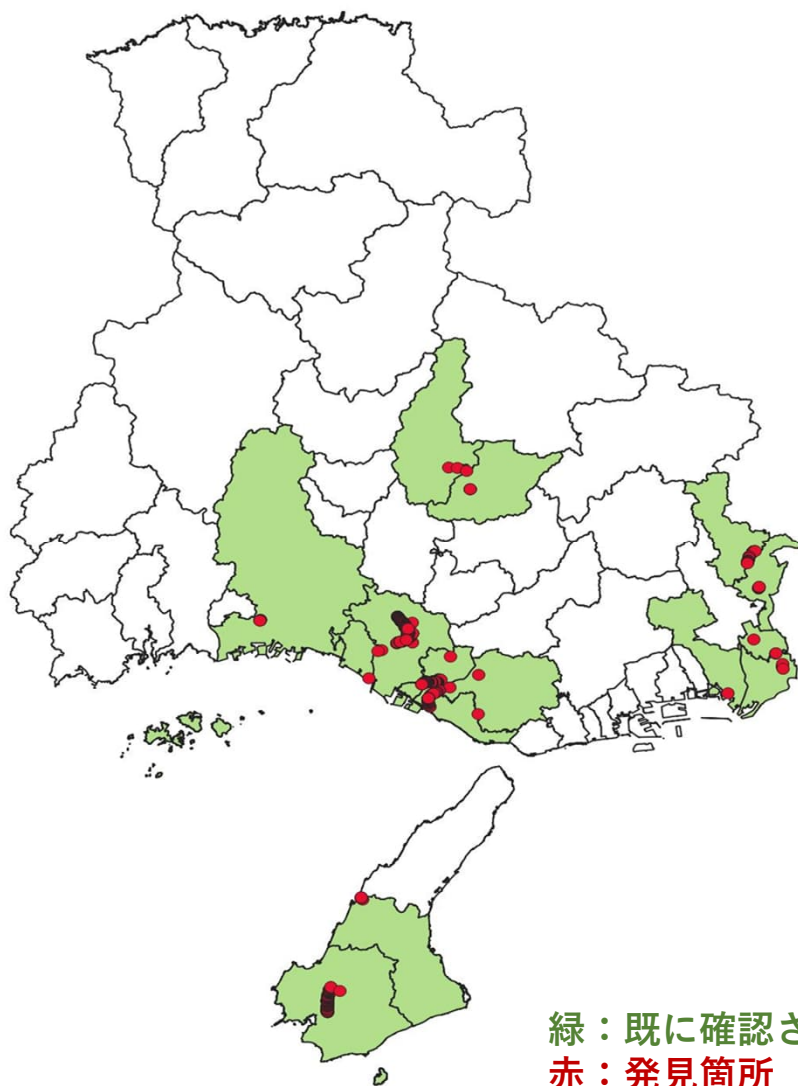
環境省と農林水産省の共管法律「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（略して「外来生物法」）において、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼす（または及ぼすおそれのある）海外起源の外来種を「**特定外来生物**」と指定。ナガエツルノゲイトウ（以下「ナガエ」という。）

もその一つに指定され、駆除の対象となっている。



新仏池の繁茂状況（令和2年9月）

（２）県内の分布状況



＜県内市町への侵入状況＞

現在 16 市町で繁茂を確認（R7.7月現在）

- ・東播磨地域：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
- ・淡路地域：洲本市、南あわじ市
- ・北播磨地域：西脇市、多可町
- ・その他：神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、川西市、姫路市、猪名川町

（3）主な生育場所

水路、河川、ため池、水田、畦畔、畑などで生育。特に日当たりのよい水辺では大群落となる。



水路での発生



水路での発生



排水路（土水路）での発生



コンクリートのり面の隙間に根を張る



排水機場の法面



河川の生育状況



畦畔（けいはん）※あぜ



水田の周りで繁茂



イネの間で開花



給水栓付近から定着



稲刈り後の水田で生育



冬（1月）の状態

（４）見た目の特徴



- ・ 茎の節や根から再生が可能 ※ 太さ2mmの根から再生可能、根は最大で1mの深さ
- ・ 繁殖力が非常に強い ※ 41日で倍増
- ・ 生育環境によって、葉の大きさや茎の太さが異なる
水辺の方が葉は大きく、茎は太く長くなりやすい
- ・ 乾燥に非常に強く、耐塩性もあり、陸上や海浜でも生育



（5）防除の方法



- ・ 刈り払いやすき込みはナガエツルノゲイトウを切り刻むことになり、爆発的な繁茂の原因になる
- ・ 除草剤で繁茂を抑制することは可能だが、根までは完全に枯れない
- ・ 一般的な防草シートでナガエツルノゲイトウを刈り取ってしまうリスクはなくなるが、駆除はできない（見かけ上枯れても、根までは完全に枯れない）

（5） - 1 遮光シート工法

● 対策工法概要

- ・ ナガエツルノゲイトウが繁茂している箇所に遮光率100%のシートを敷設
- ・ 太陽光を遮断し、光合成を阻害。枯死を待つ。

● 特徴

- ・ 適切な施工により、ナガエツルノゲイトウの確実な枯死が期待できる。
- ・ 広範囲にシートを敷設することにより、大規模な防除が可能。

● デメリット

- ・ ナガエツルノゲイトウは多年草であるため、確実な枯死まで2～3年を要する。
- ・ シート敷設後のモニタリング、破損対応等のメンテナンスが必要
- ・ シート本体＋敷設工事費用が高額
- ・ シート敷設範囲はすべての植物が枯死するため、畔が弱る可能性がある



（5） - 2 熱水散布工法

● 対策工法概要

- ・ ナガエツルノゲイトウが繁茂している箇所に高温の蒸気を噴射
- ・ 蒸気の熱により枯死させる

● 特徴

- ・ 噴射範囲の地表上の植物は確実に枯死させることが可能
- ・ 高温の水のみの使用のため、薬剤成分の残留がなく、他生物への影響がない
- ・ 噴射範囲を限定できるため、畔へのダメージ（他植物への影響）が少ない

● デメリット

- ・ 蒸気噴射範囲の地表面は枯死するが、根までの確実な枯死は未確認
- ・ 機材が高額なため、導入スキームの検討が必要
- ・ 機材が大型なため、適用できる場所が限定される（狭小な場所等への導入が困難）



（5） - 3 薬剤散布工法

● 対策工法概要

- ・ ナガエツルノゲイトウが繁茂している箇所に除草薬剤を散布
- ・ 薬剤成分により枯死させる

● 特徴

- ・ 散布範囲の地表上の植物は確実に枯死させることが可能
- ・ 散布範囲を限定できるため、畔へのダメージ（他植物への影響）が少ない
- ・ 低廉な薬剤を選択することにより、対策費用の低減が可能

● デメリット

- ・ 地表上の植物は枯死するが、根は残るため、定期的な散布が必要
- ・ 使用する薬剤の成分によって、他生物への影響が懸念される

（5） - 4 除去・抜取工法

● 対策工法概要

- ・ ナガエツルノゲイトウが繁茂している箇所を土砂ごと除去
- ・ 区域外へ搬出、処分

● 特徴

- ・ 即時除去が可能
- ・ 根（土砂）ごと完全に除去することでその区域における根絶が可能
- ・ 河川内で適用可能

● デメリット

- ・ 除去作業の際、植物断片の拡散防止など注意を要する（不適切な作業方法により、被害を拡散させる可能性あり）
- ・ 根ごと除去した土砂の処分方法（場所）の確保が困難
- ・ 除去深さにより、根が残り再生の可能性あり
- ・ 農地では採用困難

（6） 工法選択基準

- 遮光シート工法

- ・ 地区における根絶を目指す場合

- 熱水散布工法

- ・ 被害低減、地域内における拡大防止を目指す場合※
- ・ 薬剤使用が制限される場合

- 薬剤散布工法

- ・ 被害低減、地域内における拡大防止を目指す場合※
- ・ 大型設備の使用ができない場合

- 除去・抜き取り

- ・ 河川等内の駆除を実施する場合
- ・ 処分場所の確保が可能な場合

※手刈（拡散注意）と組み合わせることで効果的に対策が可能

他の雑草を残すことで、他雑草がナガエを覆い、生育阻害を生じさせることが可能

（7） 被害の未然防止、拡散防止等

● 給水栓周りに侵入防止ネット設置

- ・ 農地への侵入防止

● 農機具共用の禁止

- ・ 侵入地区と未侵入地区とで農機具を共用しない
- ・ 断片等が未侵入地区に持ち込まれることによる拡散を防止

● ため池、調整池等への侵入防止ネット設置

- ・ ため池等への流入を防止するため、流入口に侵入防止ネットを設置
- ・ 既に侵入しているため池等からの流出を防止するため、流出口に流出防止ネットを設置

● 防草シートの設置

- ・ 刈り取りによる拡散を防止するため、防草シートを設置

※駆除だけではなく、「未然の対策」
侵入防止、拡散防止が非常に重要です。



4 普及啓発資材

(1) クビアカツヤカミキリ

阪神北県民局特定外来生物対策連絡会議（令和7年7月10日） 18

サクラやモモの近くでこんな虫、木くずを見かけたら

通報をお願いします！

黒い体に赤い首

うどんのような幼虫のフン

↓こんな大きさ
(体長2.5～4cm)

この虫は「クビアカツヤカミキリ」という^{*}特定外来生物で、サクラやモモの樹を枯らします！！

※外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものについて国が指定、飼養、繁殖、運搬、輸入等が、原則として禁止され、防除の対象。

兵庫県自然鳥獣共生課 078-362-3389

サクラ・モモ・ウメからのSOS

クビアカツヤカミキリのフラスを見つけて知らせてください！

特定外来生物クビアカツヤカミキリの幼虫はサクラやモモ、ウメの木の中に住んでいます。幼虫は木の中を食べて、木を腐らせて枯らしてしまいます。腐った木をクビアカツヤカミキリはたくさん卵を産んで増え、次々に木を腐らせてしまうので、早く虫を見つけて木を守ったり、この虫が他の場所へ広がらないようにしないといけません。

フラスを見つけよう！

幼虫は「フラス」という木くずと腐葉のうんちが混ざったものを、木の外にたくさん出します。

そうめん・うどんのような形をしている
※地面に落ちたり、腐葉が当たると腐敗して、腐敗臭がする等で見つけやすいです。

成虫は5～8月にしか見られませんが、フラスは一年中見ることができ、クビアカツヤカミキリを早く見つけるための大切な手がかりです。

身近な道路や公園、学校、お家の庭などにある木に、下の写真のような木くずを見つけたら裏面でさらに詳しい見分け方をチェック！

木の根元 木の幹 樹液と一緒に

クビアカツヤカミキリのフラスかも？と思ったら！

通報用フォーム、メール（Shizenchoujuu@pref.hyogo.lg.jp）、電話のいずれかで、速やかに兵庫県自然鳥獣共生課またはお住まいの自治体窓口知らせてください！
※成虫や死体を発見した場合もお知らせください。

兵庫県自然鳥獣共生課 078-362-3389

* 「ひょうごの環境」HPにも上記チラシなどを掲示
「ひょうごの環境」→「自然環境」→「外来生物」
→「クビアカツヤカミキリ」

(2) ナガエツルノゲイトウ

水辺の近くでこんな草を見かけたら

通報をお願いします！

岸辺や水面に緑のマット

細い柄の先に球状の白い花

葉から1対の葉が生える(対生)

葉は主脈が目立つ

葉の先はやや尖る

葉は節があり、中が空洞表面がツルツルしている

この植物は「ナガエツルノゲイトウ」という*特定外来生物で、放置すると水辺や田畑に大繁殖します！

兵庫県自然鳥獣共生課 078-362-3389

普及啓発チラシ(両面) (一般住民など向け)

ナガエツルノゲイトウとは？

繁殖力が強く、水辺だけでなく陸地でも場所的に繁殖する水草。湿が繁殖する特定外来生物で、防除の対象となっています。*詳しい情報は「ひょうごの環境」へお問い合わせください。

水辺に繁殖すると、環境性もある

水辺に繁殖すると、作物を覆い、生育不良にする等、農業被害の発生が懸念されます。

安易な駆除作業は逆効果です！

ナガエツルノゲイトウは長時間の乾燥に耐え、乾いた葉や根から容易に再生します。刈草機で刈り取ったり、土に突き込んでしまったり、根が土に付くと再び繁殖してしまいます。

専門者と一緒、適切な方法で駆除に取り組み、被害を抑えることも可能です。発見したらまずは下記へご連絡をお願いします。

兵庫県 078-362-3389 またはお住まいの自治体窓口にご連絡ください。

発見日時、発見場所、発見時の状況をお知らせください。

*ナガエツルノゲイトウを生きたまま持ち帰ることは違法となります。

ひょうごの環境「ひょうごの環境」(特定外来生物) 兵庫県の自然環境 兵庫県の自然環境 兵庫県の自然環境

兵庫県自然鳥獣共生課 078-362-3389

農業者の皆様へ 難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」の侵入に注意！

ナガエツルノゲイトウは南米原産の多年草(水生植物)で、非常に繁殖力が強く、水辺のため池等で発生すると、農業用水路等を通じて水田や畦畔に侵入します。水田で繁殖すると稲の倒伏、減収、機械の作業性の低下に繋がります。

畦畔、用排水路、水田の給水口を巡回して早期発見・早期駆除に努めましょう。

見分け方のポイント

4月から10月にかけて柄の先に小さな球状の白い花をつける

葉の先はやや尖っている

葉から1対の葉が生える(対生)

葉の中心に空洞がある

ナガエツルノゲイトウは、特定外来生物に指定されています。生きた個体の保管・運搬などは法律により禁止されています。

○ナガエツルノゲイトウと似た植物を発見したら 兵庫県自然鳥獣共生課までご連絡ください。発見日時、発見場所、発見時の状況についてお知らせください(写真があれば良いです)。

<新たにナガエツルノゲイトウを発見した場合の連絡先> 兵庫県環境部自然鳥獣共生課 電話：078-362-3389 自然鳥獣共生課 メールアドレス shizenhou@pref.hyogo.lg.jp

農業者向けチラシ(両面)

ナガエツルノゲイトウの水田における対策

水田に侵入させない

●こまめに水路、水口、給水栓(口) 周り等を見回り、侵入がないか点検しましょう。※参考：おもて面「見分け方のポイント」

●水口、給水栓にネットや網(4mm目)を設置し、用水路等を通じた、室や渠の侵入を防ぎましょう。給水栓(口)のネット(網)は適時確認し、たまに葉や根を取り除き、ゴミ袋に入れて完全に枯死させてから処分してください。

水田や畦畔でまん延させない

●抜き取り・剥ぎ取りによる駆除 発生初期で、根も浅いので、断片が残らないように全て掘りと、ゴミ袋に入れ口を固く結び、完全に枯死させてから処分します。 ※特定外来生物のため、生きたままの運搬はできません。

●除草剤による処理 水田内や畦畔で使用可能な除草剤を用いて防除します。いずれの薬剤も再生の初期段階に処理すると防除効果が高まります。 ※刈草機で除草すると断片が圃場に拡散して再生します。 水稲栽培中の徹底防除は下記を組み合わせた体系処理が有効です。

使用時期	成分名等
初期期	ピラクロニルを含む薬剤
中後期	フロルピラキシフェンベンジルを含む薬剤
稲刈り後	グリホサートを含む薬剤
水田畔	フロルピラキシフェンベンジル、グリホサート(収穫まで)、DBPを含む薬剤

※薬剤の使用にあたっては、適用地域や時期等ラベル記載事項を遵守してください。

【防除方法に関するお問い合わせ先】下記は最寄りの農業改良普及センターにご連絡ください。 兵庫県農林水産部農政課 電話：078-341-7711(内線3997) 兵庫県農林水産部農政課 電話：078-341-7711(内線3997) 兵庫県農林水産部農政課 電話：078-341-7711(内線3997)

特定外来生物 ナガエツルノゲイトウ 見分け方資料

ナガエツルノゲイトウ 分 類 ヒメツルノゲイトウ属 原産地 南アメリカ

葉の先は尖る

白い球状の花

長い花柄

葉から1対に生える葉

葉の表面は滑らか

兵庫県自然鳥獣共生課 078-362-3389

ナガエツルノゲイトウの見分け方

ため池管理マニュアル

令和6年度 兵庫県ため池保全協議会 監修：兵庫県農林水産部農政課

ため池管理マニュアル

- * 「ひょうごの環境」HPにも上記チラシなどを掲示 「ひょうごの環境」→「自然環境」→「外来生物」→「ナガエツルノゲイトウ」
- * 「ひょうごため池保全県民運動」HPに 「ため池管理マニュアル(令和6年度版)」を掲示

5 お知らせ

阪神北県民局特定外来生物対策連絡会議（令和7年7月10日） 20

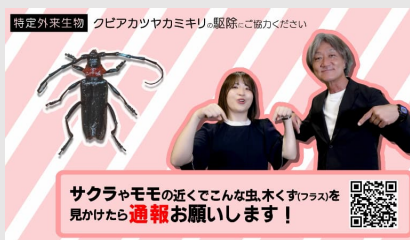
（1）啓発動画の作成

- 出演者：KissFMサントクル ターザン山下氏、県職員
- 動画の長さ：それぞれ約60秒
- 掲載媒体：県・市町HP、各種SNS、デジタルサイネージ（三宮センター街、公共交通機関(検討中)）等

動画はこちらから
ご覧いただけます

https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_290



項目	ナガエツルノゲイトウ	クビアカツヤカミキリ	内容
導入			侵入危機に直面している状況
解説			それぞれの生物の解説
啓発 ・ 呼びかけ			見つけた際の対処方法の啓発 ・ 発見時の県への通報協力の 呼びかけ

（２）研修会の開催

特定外来生物のナガエツルノゲイトウの繁茂期(6～10月)とクビアカツヤカミキリの活動期(6月初旬～8月初旬)において、主としてこれら生物の未確認地域の関係者等を対象として、**生態系保全や新たな発生の未然防止を目的とした講習会を開催**します。

区 分	ナガエツルノゲイトウ	クビアカツヤカミキリ
内 容	「ナガエツルノゲイトウの防ぎ方」 行政説明、専門家講演、県内外の被害への対策の紹介等	「クビアカツヤカミキリからサクラを守るために」 行政説明、専門家講演、高校生等による事例発表、意見交換
対象者	生態系保全活動に取り組む NPO、団体、企業、学生等 農業従事者、水利関係者等 	サクラ・ウメ・モモ等 の樹木管理者 等 
日 程	令和7年8月19日(火)13:00～17:00	令和7年7月24日(木)14:30～16:15
会 場	県立人と自然の博物館 ポロンピアホール(三田市)	子午線ホール(明石市)
定 員	250名程度	200名程度
申込方法	兵庫県環境部自然鳥獣共生課まで下のQRコードから申込（※応募者多数の場合は先着順になります）	
申込QR コード		

ナガエツルノゲイトウ

【ナガエツルノゲイトウの防ぎ方】

- 県の外来生物対策の取組等について（県環境部）
- 淡路島洲本市本田池ほんでんにおける対策（淡路米山ため池保全ネットワーク 岡本賢三氏）
- 遮光シート方式によるナガエツルノゲイトウ対策（エコロジー研究所 丸井英幹氏）
- 滋賀県におけるナガエツルノゲイトウ対策（滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏）
- 静岡県におけるナガエツルノゲイトウ対策（常葉大学 浅見佳代氏）
- 手賀沼におけるナガエツルノゲイトウ対策（いであ株式会社）
- 淀川下流域におけるナガエツルノゲイトウ対策（株式会社建設技術研究所）
- 高槻市におけるナガエツルノゲイトウ対策（高槻市立博物館）
- ナガエツルノゲイトウの植物生理と薬剤特性（甲南大学 今井 博之 氏）
- 総合的防除戦略について（兵庫県立人と自然の博物館 三橋 弘宗 氏）

クビアカツヤカミキリ

【クビアカツヤカミキリからサクラを守るために】

- 県の外来生物対策の取組等について（県環境部）
- 見分け方・特性、侵入防止対策等について
（むねざね樹木医・環境カウンセラー事務所 宗實 久義 氏）
- 取組・事例発表
 - ・地域・企業・専門機関と連携した取組
（明石北高校生物部）
 - ・神戸市におけるこれまでの取組（神戸市）
- 会場との意見交換

〈これまでの取組との関係〉

これまで、発生が確認された地域において集中的に防除対策を実施していたことから、この度、これまで対応できていない**発生の未然防止という観点からの講習会を開催**します。

※ 発生地域においてこれまでから開催している講習会についても、別途開催します。

ナガエツルノゲイトウ増殖防止のための遮光シートの設置



ナガエツルノゲイトウの拡散防止のためのネットの設置



クビアカツヤカミキリ離散防止のためのネットの設置